

# いずみさの教育



問合先  
学校教育課

## 道徳教育 ～「特別の教科道徳」にもむけて～

小学校では平成30年度、中学校では平成31年度より、検定教科書を導入して「道徳科」が実施されます。それを受け、本市の小・中学校においても様々な取組が進められています。

「子どもたちの65%は大学卒業後、今は存在していない職業に就く」（キャッシュ・デビッドソン）と言われるように、社会や産業の変化が激しい中、次代を創造することが求められている子どもたちには、課題発見・解決能力や創造性、感性、思いやり、意欲、多様性を受容する力といった資質や能力が求められています。

今の子どもたちの中では、お互いを傷つけあうような痛ましい事件が多発しています。諸外国と比べて、「自分は価値ある人間だと思つ」といった自分に対する評価が低い現状が注目されています。

に、「正義とは何か」といった見方や立場によって答えが一つではない課題を自分の問題として考えたり、真剣に議論したりして、自立した人間として他者と共によりよく生きようとする道徳心を育む必要があります。

学校では、「私たちの道徳」（文部科学省）などを使い、子どもたちが偉人や著名人の生き方に関する内容やいじめ問題、我が国の伝統と文化、情報モラルなどを体系的に学ぶことができるよう研究を進めています。また、ペアやグループでの話し合い活動をとり入れるなど「考え、議論する」道徳へと転換を図っています。

さらに、本市では道徳教育振興条例を制定し、地域の道徳教育の拠点となる学校、自立心などを育成する家庭および子ども模範となる地域が連携し、道徳教育の振興をめざしています。家庭・地域においても学校とともに、人として「大切なところ・必要な資質」の育成に協力をお願いいたします。



## 学校園紹介



### 三小体育館が完成 ～第三小学校～



昨年3月に体育館が完成しました。建築中に使用目的を考え、まず第一に安心して安全に使用できることを願い、子どもたちの通学時に着用している安全帽のカラーリングをモチーフにした配色を一部にお願いしました。そうして、これまでお世話になった講堂が、強く美しい体育館として生まれ変わり、完成後初めての児童朝礼の時には、子どもたちから、「きれい」「明るい」「大きい」という声が口々に聞かれました。この言葉が子どもたちからいつまでも聞かれるよう、未永く大切にしていきたいと思えます。

体育館では体育の学習はもちろんですが、学校行事や様々な活動も行われています。本校伝統の「縦割り班活動」や、地域と一緒に「学校文化祭」「むかし遊び交流」などがそうです。これらの行事や活動が新しい体育館で実施されることになって、内容も一新されたような新鮮な気持ちで取り組むことができます。

また、体育館の屋根には太陽光パネルが設置され、屋内には蓄電システムも備えられています。ですから、日中十分な太陽光があれば、災害や不慮の事故などで停電があっても、夜間、この体育館で使う最小限の電気は確保されるそうです。昨年は、この体育館を拠点とした地域のみなさんによる防災訓練が2回行われました。それによって、参加された多くのみなさんに新しい体育館の使い勝手のよさと、美しさを知っていただくことができました。今後、この体育館も地域防災の拠点として、もう一つの大きな役割を果たせそうです。



### 40年目の歩み ～佐野中学校～

佐野中学校は、昨年で創立40周年を迎えました。10月に行われた文化祭は、記念の年にふさわしい素晴らしい内容で大変盛り上がりしました。文化部による迫力ある発表や各学年の工夫を凝らした発表など、いずれも見応えのあるものでしたが、合唱コンクール、特に3年生の歌声はクラスの思いが伝わってきて感動的でした。



また、40周年を記念して全校生徒で校章を形取った人文字を作って、撮影した航空写真をクリアファイルにして配布しました。

11月1日の日曜授業参観の後には、京都大学福井謙一記念研究センターの諸熊奎治さんをお招きして、佐野中学校創立40周年記念講演として、「私と科学と泉佐野」という演題でご講演いただきました。諸熊さんは佐野中学校の前身である第一中学校の出身で、世界的なスケールで理論化学、計算化学の分野で活躍されています。

講演では、科学に興味を持つことになった中学時代の思い出から、最新の科学のことまで幅広い内容でお話いただきました。

「人生は偶然の出会いから始まる」「人生には岐路がある」という言葉は、今後の進路選択の指針として、子どもたちの胸に刻みつけてほしいものです。

